資料　1

熊本市障がい者自立支援協議会

熊本市障がい者サポーター制度
シンボルマーク

平成29年5月26日

熊本市 健康福祉局 障がい者支援部

障がい保健福祉課

熊本市障がい者自立支援協議会

◆**設置時期**　平成18年度（平成19年3月）設置

◆**設置目的**　障がい者及び障がい児が、能力及び適性に応じ、住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるよう、適正な相談支援事業の実施、地域の関係機関によるネットワークの強化及び社会資源の開発、改善等を推進することを目的とする。

◆**設置要綱**　熊本市障がい者自立支援協議会設置要綱

◆**委員**　27名（任期２年）

《委員構成》※H29～30年度

委託相談支援事業所	9名	学識経験者	2名
サービス事業者	4名	障がい当事者	4名
保健・医療関係	1名	（他委員と兼務）	
学校・教育関係者	1名		
企業・雇用関係	4名		
福祉施設等	1名		
障がい者団体	5名		

熊本市障がい者自立支援協議会

◆本会議

・構成　全委員

・開催頻度　年4回（5月、8月、11月、2月）

・協議内容　状況に合わせて事務局からの提案、
委員からの要望等に基づき議事を設定。
運営会議に諮り決定する。

＜議事の基本構成＞

○ 法制度改正・新たな取り組み等の概要紹介（事務局より）
○ 部会報告
○ テーマについての協議
▲ ミニ研修（困難事例共有など）
○ その他

※近年は取り扱うべき議事が多く
時間が取れないため、
部会での実施に任せている。

◆運営会議

・構成　会長、副会長、各部会長、事務局（市）

・開催頻度　年4回（本会議の1ヶ月程前）

・協議内容　本会議で取り扱う議事の決定等

熊本市障がい者自立支援協議会

◆専門部会

・構成　　各部会で設定

※部会は本会議委員に限らず、協議内容や参加希望に応じてメンバーを設定している。

・開催頻度　　月1回

・部会数　　４部会（テーマ別）

○子ども部会　･･･障がい児の支援について協議

○就労部会　　･･･障がい者の就労支援について協議

○相談支援部会･･･障がい者（児）に関する課題を整理し、解決に向けての協議

○精神障がい者地域移行支援部会

･･･精神障がい者の地域移行・定着支援について協議

《参考》部会設置経緯

平成19年度　部会設置の協議開始。

平成20年度　分野別サブ協議会として活動開始。
「くらし部会」「子ども部会」「就労部会」の３部会でスタート。

平成23年度　「課題解決ワーキンググループ」設置。

平成25年度　課題解決ワーキンググループを「相談支援部会」として追加。
「精神障がい者地域移行支援部会」追加。

平成27年度　くらし部会を相談支援部会に統合。協議内容、メンバーを一部引き継ぐ。

熊本市障がい者自立支援協議会のイメージ

本会議 （年4回：5月/8月/11月/2月）

【本会議の機能】

- 委託相談支援事業者の中立性・公平性の確保のための処遇方策のあり方の協議
- 困難事例への対応のあり方の協議
- 地域の関係機関によるネットワークの構築等
- 地域の社会資源の点検及び開発
- 各部会の進捗管理・評価（検証）
- 各種施策への提案
  提案の施策への反映状況調査
- 障害福祉計画策定時の意見聴取
- 当事者意見の積極的聴取

○進捗状況の報告
○困難事例の報告
○地域的課題の提起（抽出）
○検討結果の報告　　など

運営会議（正副会長・各部会長会議）
（年４回：本会議１ヶ月前）

○進捗状況の管理・評価
○困難事例の共有・検討
○地域的課題の対応策の検討依頼
○検討結果の報告内容の
　協議・承認　　など

専門部会 （毎月）

- **就労部会**
- **子ども部会**
- **相談支援部会**
  ※くらし部会を統合
- **精神障がい者**
  地域移行支援部会

「難病」、「発達障がい」等制度の谷間にある方に対する課題等についても各部会で取り扱う

本会議の主な機能（分類）

評価機能

- 委託相談支援事業者の中立性・公平性の確保のための処遇方策のあり方の協議

開発機能

- 地域の社会資源の点検及び開発
- 各種施策への提案＋提案の施策への反映状況調査

調整機能

- 地域の関係機関によるネットワークの構築等

権利擁護機能

- 当事者意見の積極的聴取

情報機能

- 困難事例への対応のあり方の協議

- 各部会の進捗管理・評価（検証）
- 障害福祉計画策定時の意見聴取
- その他

本会議　議事一覧

太字：市施策等に関する意見聴取等　***太斜字***：：部会からの提案・報告等

	平成25年度	平成26年度
5月	(1) 部会及び課題解決ワーキンググループ報告 (2) 部会及び課題解決ワーキンググループの進め方 (3) 各部会長等選出 (4) 新たな取組み等の概要紹介 (5) テーマ： ・前回テーマ「居宅介護について」での質問に対する回答（重度訪問介護に係る支給基準） ・次回テーマ検討	(1) 新たな取組み等の概要紹介 (2) 各部会報告 (3) テーマ： ・***障がい児保育に関する提案について（子ども部会）*** **・障がい者に対する相談支援体制強化に向けた再編（公募による委託化）について** ・部会の運営について
8月	(1) 新たな取組み等の概要紹介 (2) 各部会報告 (3) テーマ： ・***障がい者への就労支援について（就労部会）***	(1) 新たな取組み等の概要紹介 (2) 各部会報告 (3) テーマ： **・熊本市障がい者プランの見直しにかかる検討結果報告について** **・障がい者に対する相談支援体制強化に向けた再編（公募による委託化）について**
11月	(1) 新たな取組み等の概要紹介 (2) 各部会報告 (3) テーマ： **・障がい者に対する相談支援体制の重点化について**	(1) 新たな取組み等の概要紹介 (2) 各部会報告 (3) テーマ： **・熊本市障がい者プランの中間見直し及び熊本市障がい福祉計画（第4期）の策定について** ・***高齢入院患者地域支援事業の効果検証報告（精神障がい者地域移行支援部会）***
2月	(1) 新たな取組み等の概要紹介 (2) 各部会報告 (3) テーマ： ・***障がい者の就労について（就労部会）*** **・相談支援事業について**	(1) 新たな取組み等の概要紹介 (2) 各部会報告 (3) テーマについての協議： **・熊本市障がい者プランの中間見直し及び熊本市障がい福祉計画（第4期）の策定について** ・熊本市障がい者自立支援協議会の目的・機能、活動経緯、今後の展開について

本会議　議事一覧

太字：市施策等に関する意見聴取等　***太斜字***：：部会からの提案・報告等

	平成27年度	平成28年度
5月	(1) 部会報告 (2) 各部会長等選出 (3) 新たな取り組み等の概要紹介 (4) テーマについての協議 ・平成27年度以降の熊本市障がい者自立支援協議会において協議するテーマについて	開催なし
8月	(1) 新たな取組み等の概要紹介 (2) 各部会報告 (3) テーマについての協議： ・平成26年度第1回会議における子ども部会提案についての対応状況報告 ・***放課後等デイサービスに関するアンケート調査結果を踏まえた子ども部会提案*** ・協議テーマについてのアンケート結果報告及び今後取り扱うテーマについて	(1) 平成28年熊本地震への対応状況報告 (2) 各部会報告 (3) その他各種報告等
11月	(1) 新たな取組み等の概要紹介 (2) 各部会報告 (3) テーマについての協議： **・障害者差別解消法にかかる各種取組について** **・熊本市障がい者相談支援事業業務委託にかかるモニタリングの実施について** ・相談支援機能強化員連絡会議で抽出された課題の熊本市障がい者自立支援協議会への引継ぎについて ・委員から寄せられた各種課題の整理について	(1) 新たな取組み等の概要紹介 (2) 各部会報告 (3) テーマについての協議： **・地域生活支援拠点等の整備及び基幹相談支援センターの設置について**
2月	(1) 新たな取組み等の概要紹介 (2) 各部会報告 (3) テーマについての協議： **・地域生活支援拠点等の整備について**（県説明） **・桜町・花畑周辺地区の整備に伴うアンケート調査について** ・委員から寄せられた各種課題の整理について	(1) 新たな取組み等の概要紹介 (2) 各部会報告 (3) テーマについての協議： **・地域生活支援拠点等整備について**

部会の活動状況一覧（平成２８年度）

	子ども部会	就労部会	相談支援部会	精神障がい者 地域移行支援部会
開催日 ※変更もあり	毎月第２水曜	毎月第１木曜	毎月第３水曜	毎月第２水曜 ※29年度は第２火曜
構成 メンバー （本会議委員以外も参加あり）	相談支援事業所 児童支援施設関係 子ども発達支援センター 家族会 障がい児通所支援事業所	相談支援事業所 就労移行支援事業所 就労継続支援Ａ型・Ｂ型事業所 特別支援学校 職業紹介・相談機関 専門相談機関 当事者・家族会 その他（企業、医療機関等）	相談支援事業所 （委託、指定一般・特定・障害児）	相談支援事業所 地域活動支援センター 医療関係者 社会福祉法人 生活訓練事業所
Ｈ28年度の主な取組 ・ 協議内容	**障がいのある児童の支援について協議** ●震災対応の報告及び検討 ●ミニ研修会 ●余暇活動支援マップ情報更新 ●医療的ケアを要する障がい児への支援について協議 ●放課後等デイサービスに関する要望書への市回答書検討 ●地域発達支援ネットワークについての活動報告及び意見交換 ほか	**障がいのある方の就労支援について協議** ●ミニ研修 ●運営会議 ●班別検討 ・企業巻き込み班 ・福祉行政班 ・当事者対話班 ・広報システム班 ほか	**障がい者（児）に関する課題を整理し、解決に向けた協議** ●熊本地震に伴う障がい者戸別訪問 ●班別検討 ・計画見直し班 ・ガイドライン班 ・事例検討班 ・インフォメーション・アップデート班 ほか	**精神障がい者の地域移行・定着支援について協議** ●長期入院精神障がい者の地域移行に関する意向調査の結果分析及び政策提言内容の検討 ●研修会の企画・実施 ●関係施設との情報交換等による社会資源の整理や情報誌作成 ●区毎のロードマップの進捗確認 ●地域相談支援（個別給付）の利用状況に関する情報交換 ほか

子ども部会の取り組み①

子ども部会は、障がいのある児童の支援について協議するために、平成２０年度に設置されました。

毎月１回、相談支援事業者やサービス提供事業者、親の会、子ども発達支援センターなど障がいのある児童の支援に携わる機関が情報交換を行い、課題の整理や解決策の検討、社会資源の共有などを行っています。

〔設置後の活動（主なもの）〕

年度	活動内容
平成20年度	**子ども部会立ち上げ**、障がい児支援に関する情報収集
平成21年度	障がい児保育について協議、アンケートの実施
平成22年度	放課後、長期休暇中の支援について
平成23年度	放課後の支援について協議
平成24年度	余暇活動、放課後の支援について協議 幼稚園・保育所の先生のためのフローチャートについて協議
平成25年度	障がい児保育の提案書作成
平成26年度	放課後等デイサービスについて協議、アンケートの実施
平成27年度	放課後等デイサービスに関する提案書作成、ミニ研修会、 余暇活動支援マップづくり

子ども部会の取り組み②

〔平成28年度の活動〕

- 震災対応の報告及び検討
- ミニ研修会
- 余暇活動支援マップ情報更新
- 医療的ケアを要する障がい児への支援について協議
- 放課後等デイサービスに関する要望書への市回答書検討
- 地域発達支援ネットワークについての活動報告及び意見交換　　ほか

〔製作物・施策に関する提案等〕

- 放課後等デイサービスに関する提案書（H27）
- 熊本市における障がい児保育に関する提案書（H26）
- 障がい児余暇支援マップ（H28）
  （スポーツ、文化、親の会、YMCA　等）

障がい児余暇支援マップ
親の会の情報ページ　　»

親の会（家族・支援者・関係者等で構成）

No.1	対象	知的障がい児・者		
団体名	（社会福祉法人）　熊本市手をつなぐ育成会　　代表者名　川村　華秋			
事務局所在地	〒　860-0004 熊本市中央区新町2丁目4－27（熊本市健康センター新町分室2階）			
電話	096-352-0010	E-mail	k@s-ikuseikai.com	
FAX	096-352-1459	HPアドレス	http://www.s-ikuseikai.com/	
電話対応可能な時間	月～金（祝日を除く） 9：00～17：00	（連絡先に関する特記事項）		
入会方法	まずは電話で	活動参加方法	入会時、また行事前にお知らせを送ります	
入会金	無	年会費	6,000円 ※本人（働いている）は3,000円	

活動内容

活動の名称など	対象者	活動日	費用	活動場所
「つなごう会」 旅行・調理・カラオケ	本人	原則、 毎月第3日曜日	実費	主に希望日 ボウリング・旅行等
「先輩教えて！！」 座談会	学齢期の保護者	毎月第3水曜日 10：00	無料	ウェルパル2階
「ちょっと聞いてよ！」 座談会	成人期の保護者	毎月第4月曜日 10：00	無料	希望日
施設や学校見学会の実施	希望する保護者	年2～3回	会員は無料 非会員は 1,000円／1回	見学施設
講演会の実施	希望する保護者	年2回程度	会員は無料 非会員は 1,000円／1回	主に希望日

会のPR

創立60周年を迎える親の会（昭和31年創立）。会員数450名（賛助会員含む）。
主に知的障害者（児）の親や支援者たちが手をつなぐ会。
全国にある組織、運動体です。

就労部会の取り組み①

熊本市障がい者自立支援協議会において、『障がい者の「地域で働きたい」を実現させる』ことを目的に平成２０年度に設置されました。

毎月１回、相談支援事業所、就労移行支援事業所、就労継続支援事業所（A型・B型）、支援学校、ハローワーク、障害者職業センター、各種専門機関、当事者会、家族会、医療機関、企業などの機関が障がいのある方の就労支援について協議等を行っています。

〔設置後の活動（主なもの）〕

年度	活動内容
平成20年度	**就労部会立ち上げ**
平成23年度	「くまもと就労支援者研修会」開催、「熊本市障がい者就労支援ガイドブック」「はたらく・はたらきつづけるためのハンドブック」作成
平成24年度	「就労支援研修会『いろんな働きかたを学ぼう』及び相談会『支援機関を知って・つながろう』」開催、「しごといく」作成、「熊本市障がい者就労支援ガイドブック」改良・更新、就労継続支援A・B型事業所の実態調査（アンケート）実施
平成25年度	「障がいのある方の就労支援フォーラム～『発達障がいのある方が働くために、今・・・』～」開催、「熊本市障がい者就労支援ガイドブック」の改良・更新、「しごといくVol.2」作成、就労継続支援A・B型事業所アンケート調査実施、「A型事業所研修会」開催
平成26年度	「熊本市障がい者就労支援ガイドブック」改良・更新、「しごといくVol.3」作成、「熊本市障がい者プラン」中間見直しに対する検討結果報告、「第2回A型事業所研修会」開催、ケース検討、「A型事業所までの道のりマップ」作成
平成27年度	「しごといくVol.4」作成、企業セミナー開催、一般就労への道筋マップ作成、A型事業所自己評価表作成、内覧会・商談会開催、当事者の夢実現（ネットラジオ放送）、当事者発信の研修会開催、各施設を紹介する「施設プラグ」開設、就労部会の取組紹介ホームページ開設

就労部会の取り組み②

〔平成28年度の活動〕

●企業巻き込み班

・「しごといくVol. 5 」の制作
・就労フェアでの雇用に関する研修会の開催
＊熊本市と協力し障がい者サポート企業を増やす

●福祉行政班

・熊本市とはーとアラウンドくまもととの連携による販売会開催、共同受注について検討
・就労フェアによる内覧会・商談会の開催

●当事者対話班

・冊子の作成（当事者視点のミニコミ誌）
・おでかけふらっと（当事者視点での福祉事業所取材と紹介）
・夕方ふらっと（交流会）
・就労フェアでの当事者との対話型セミナー開催

●広報システム班

・就労部会のホームページの整備・周知活動
・就労フェアの広報活動
・施設プラグの改良・周知活動

就労部会の取り組み③

〔製作物・施策に関する提案等〕

・熊本市障がい者就労支援ガイドブック（H23～27）
・はたらく・はたらきつづけるためのハンドブック（H23）　・しごといく（H24～）
・熊本市障がい者プラン中間見直しに対する検討結果報告（H26）
・A型事業所までの道のりマップ（H26）
・施設プラグ（熊本市内の就労系サービス事業所情報）（H27）

相談支援部会の取り組み①

相談支援部会は、障がい福祉にまつわる各種課題を共有し、解決に向けての検討を行う「課題解決ワーキンググループ」として平成２３年度にスタートし、平成２５年度に正式に相談支援部会として設置されました。また、平成２７年度以降はくらし部会を吸収合併し、一部取組を引き継いでいます。

毎月１回、委託相談支援事業者及び指定特定相談支援事業者等が情報交換を行い、課題の整理や解決策の検討、社会資源の共有・開発、相談支援事業者のスキルアップに向けた取組等を行っています。

〔設置後の活動（主なもの）〕

年度	活動内容
平成20年度	**くらし部会立ち上げ**
平成23年度	**課題解決ワーキンググループ立ち上げ**
平成24年度	くらし部会：ヨカ余暇情報便利帳作成、困難事例検討、当事者交流会開催検討 課題解決ワーキンググループ：計画相談支援検討
平成25年度	**課題解決ワーキンググループを相談支援部会として立ち上げ** くらし部会：ヨカ余暇情報便利帳更新、当事者交流会開催、グループホームケアホーム情報整理、困難事例検討
平成26年度	くらし部会：当事者交流会開催、くらしに関するアンケート調査、グループホーム情報整理、居宅介護事業所との意見交換→ヘルパー事業所の現状と課題まとめ 相談支援部会：相談プラグ作成、計画相談支援Ｑ＆Ａ集作成、相談支援ハンドブック作成、計画相談状況アンケート（空き状況）
平成27年度	**くらし部会が相談支援部会に吸収合併** 福祉サービス課題抽出、グループホーム情報・ヨカ余暇情報便利帳・Ｑ＆Ａ集・相談支援ハンドブック更新、相談プラグ（計画相談空き状況）・住まいプラグ（グループホーム情報）作成

相談支援部会の取り組み②

〔平成28年度の活動〕

・熊本地震に伴う障がい者戸別訪問

●計画見直し班
　・計画相談支援で使用する計画様式の見直し

●ガイドライン班
　・モニタリングの実情、相談支援事業所の運営に対するアンケートを実施

●事例検討班
　・事例検討グループワーク

●インフォメーション・アップデート班
　・既存の情報の更新、管理
　・インフォーマルサービス情報の収集

ほか

〔製作物・施策に関する提案等〕

・ヨカ余暇情報便利帳（H24）
・相談支援ハンドブック（H26）
・相談プラグ（計画相談空き状況）（H27）
・住まいプラグ（グループホーム情報）（H27）

精神障がい者地域移行支援部会の取り組み①

精神障がい者地域移行支援部会では、精神障がい者の地域移行や自立を促進する事を目的に、地域移行に必要な地域体制の整備や、関係機関が連携して退院に向けた支援を行うための検討をしています。

毎月１回、精神科病院、相談支援事業所（委託）、地域活動支援センターⅠ型などが集まり、情報交換や研修会、事例検討などを行っています。

〔活動経歴〕

平成１６年に厚生労働省が取りまとめた精神保健医療福祉の改革ビジョンの中で、「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本方針が出されたことを受け、熊本市では平成１７年度から関係機関による「障がい者自立生活体制検討会」を開始し、ニーズ調査や研修会、社会資源のホームページ作成などを行ってきました。この検討会を、平成２５年度から熊本市障がい者自立支援協議会の部会として位置付け、活動を継続しています。

〔設置後の活動（主なもの）〕

年度	活動内容
平成17年度	**障がい者自立生活体制検討会立ち上げ**
平成25年度	**精神障がい者地域移行支援部会として立ち上げ** 研修会（ピアサポート活用、精神障がい者の地域生活支援、退院支援・地域支援の実践報告 他）、事例検討、普及啓発の取り組み（病院・事業所等専門職、地域住民・当事者）
平成26年度	全体研修「地域移行支援のポイントについて」開催、地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）制度説明、高齢入院患者地域支援事業の対象ケースの事例検討、広報誌発行
平成27年度	本人の意向に沿った退院支援の促進（医療機関の協力により長期入院患者への意向調査実施） 退院に向けての理解の促進（部会内で研修会開催、グループワークによる意見交換実施）

精神障がい者地域移行支援部会の取り組み②

〔平成28年度の活動〕

- 長期入院精神障がい者の地域移行に関する意向調査の結果分析及び政策提言内容の検討
- 研修会の企画・実施
- 関係施設との情報交換等による社会資源の整理や情報誌作成等
- 区毎のロードマップの進捗確認
- 地域相談支援（個別給付）の利用状況に関する情報交換　　ほか

〔製作物・施策に関する提案等〕

- 精神障がい者地域移行支援事業について（高齢入院患者地域支援事業の効果検証）（H26）
- 長期入院精神障がい者の地域移行に関する意向調査報告（H27）
- 広報誌（H26、27）

熊本市障がい者自立支援協議会

精神障がい者地域移行支援部会 広報誌

第2号　発行日：平成26年12月8日

精神障害高齢者の地域移行に向けて

熊本市養護老人ホーム部会長
養護老人ホーム　ライトホーム
施設長　中山　泰男

養護老人ホームは、生活困窮にあって身寄りのない孤独な高齢者の受け皿として、戦後からその役割を担ってきた。その後、日本は急速な高齢社会を迎え、高齢者独居世帯も増加。これに伴って生活保護高齢者等をターゲットにした住居や通所サービスが台頭してきた。しかし、そこでも受入れ拒否や多様な心身機能の障害や複雑な問題を抱え、地域に埋もれた高齢者が存在している。養護老人ホームが高齢者のセーフティネットたる存在理由はそこにあるのです。

養護老人ホームへの中請要件である「環境的要因」には、災害・虐待・強制退去等によって緊急に住まいが必要な高齢者、ギャンブルやアルコール依存等によって家族と絶縁状態にある高齢者、刑期を終えた高齢者など行く当てのない状態を指してお り、長期入院精神患者の半数が高齢者という現実を踏まえれば、福祉施設側が疾患に対するスキルを身に付け、その一翼を担うことは可能である。特に精神状態の変化を観察しつつ、服薬管理を確実に支える強みがある。

今回、熊本市自立支援協議会を通じ、勉強会が開催されたことは先駆的な取り組みとして全国から注目を浴びている。改正精神保健福祉法に沿って、より実践的な関係を築きあげ、「熊本版モデル」を発信することも可能かも知れない。そのカギとなるのは、行政・医療・施設三者の丁寧な情報共有と養護老人ホームと共に伴走して頂けるＰＳＷ・ＭＳＷの存在である。

高齢入院患者地域支援事業

日識病院　精神保健福祉士　高野由香

今回、この事業を実施させていただき、一番良かった点はチームアプローチをする仕組み作りができたことです。

当院には退院に向けたクリティカルパス等がないため、今回、院内チームを作ること、カンファレンスを実施すること、月に１回の報告を行うことなどある程度枠にはめ込むことで、支援しやすくなったと感じています。チームの退院に向けた意識も高まり、何より対象者にスポットが当たり続けたことがとても良かったと思います。スタート時に月に１回カンファレンスを行うと決めたことで、それぞれの職種が１ヵ月という見通しをもってアプローチできました。また、問題の共有、情報交換はもちろんですが、今チームとしてどういう方向に向かっているのかそこで立ち止まって考えることができたと実感しています。

課題としては、後半ほとんど動きがなかった時に、何か別の方向性やアイデアを一緒に考えていただけるようなところがあれば、また違うアプローチができたのかなと思いました。

最後に、今回時間をかけて一人の対象者と向き合ったことで、退院支援について深く学ぶことができ、さらに職種の専門性や役割を改めて考える機会になりました。

広報誌　»